

特別支援学級担当者指導力向上研修【新任担当者研修】

ステップ0研修

障がいのある児童生徒の理解と支援

(短縮版)

熊本県教育委員会

内容

1. 特別支援学級担任に求められること
2. 児童生徒理解の視点
3. 支援のヒント
4. 個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成・活用と引継ぎ
5. 保護者との連携
6. 連携による指導の充実



ステップ1研修で
説明します

※「児童生徒」についてスライドの表記は、「児童生徒」としますが、説明では「子供」と呼びます。

Ⅰ. 特別支援学級担任に求められること

(1) 共感的な理解

児童生徒は、自分のよさや可能性に目を向けてくれる人に対して心を開き、信頼してくれます。そのためには、共感的な理解と態度が求められます。
このことは、保護者や関係者に対しても同様です。

(2) 的確な実態把握と困難さの理解

障がいのある児童生徒を理解していく上で大切なことは、一人一人の児童生徒と向き合い、各教科等の習得状況や既習事項について把握するとともに、障がいの特性や障がいによる学習上又は生活上の困難などについてできるだけ正確に知ることです。

(3) 指導と手立ての工夫

困難さの状態（〇〇が難しいなど）に対して、指導の意図（〇〇ができるように）を明らかにして、個に応じた様々な手立てを考えることが障がいのある児童生徒の学びを充実させるとともに、教師の指導力を向上させます。

2. 児童生徒理解の視点

①「個人因子」と「環境因子」の視点で捉える

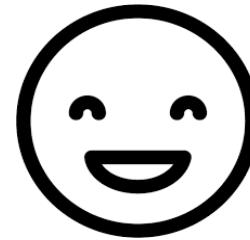
・ 個人因子

身体機能
能力

年齢

性格

性別



認知

意思



○児童生徒の行動等は「個人因子」と「環境因子」が相互に影響している。

・ 環境因子

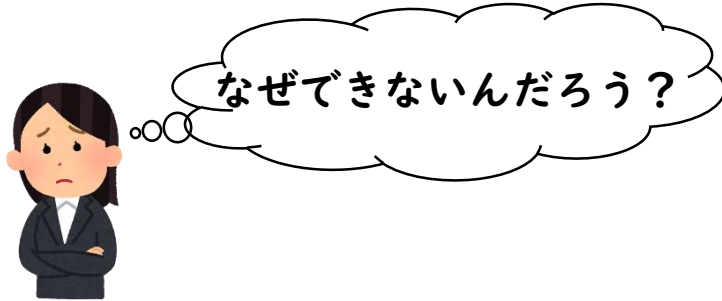
○施設・設備 住宅環境 教室環境 教材・教具 等

○家族 友人 教師の働きかけ 等

○制度 サービス 等

2. 児童生徒理解の視点

②視点を变えることで「児童生徒の困っている理由」を明らかに



指示をしても、活動に参加しません

視点を变えて児童生徒をみつめてみると、児童生徒の状態や気持ちへの新たな気づきがある

授業中の離席が多く、教室を飛び出します

視点を
変えると

視点を
変えると



よく分からない・・・
すぐわすれてしまうよ・・・

児童生徒が困っている理由

- ・指示を聞いても何のことかよく分からない。
- ・先生に言われたことをすぐに忘れてしまう。
- ・困っていることをどう伝えたらよいか分からないから参加できない。等

児童生徒が困っている理由

- ・授業の内容がよく分からない。
- ・周りの刺激が気になって集中したいけどできない。(音、人の動き、におい) 等

2. 児童生徒理解の視点

③児童生徒の行動を冰山モデルで考える



3. 支援のヒント

①児童生徒が安心して学ぶために

ア 「どうしたらいいか」のモデルを示す

イ 視覚的・具体的な支援

ウ 見通しを持てるようにする

エ 学習環境を整える

オ 苦手なことはスモールステップで

4. 個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成・活用と引継ぎ

①個別の教育支援計画

特別な支援を必要とする児童生徒の関係者が連携し、長期的な視点で就学前から学校卒業まで、一貫した支援を行うためのトータルな計画

②個別の指導計画

特別な支援を必要とする児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応して1年間行う、具体的できめ細やかな指導や支援を行うための計画



5. 保護者との連携

- (1) 保護者の置かれた状態を考え、心情を理解する
- (2) 保護者との協力関係を築く
- (3) 専門機関への接続

6. 連携による指導の充実

- (1) 校内の協力体制や地域資源の活用
- (2) 周囲の児童生徒の理解を深める
- (3) 障がいの有無の診断
 - 診断するのは医師、教師は指導や支援を優先する

おわりに・・・



特別支援学級は、児童生徒の可能性を最大限に伸ばし、可能な限り自立し、社会参加するための基盤となる生きる力を育む場である